

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 愛信芳主会	代表者	塚本恵里香	法人・ 事業所 の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。 「施設理念」として ①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する ⑥地域の一員として活動する
事業所名	丘の上倶楽部片倉	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	人	1人	1人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①各改善計画について職員会議などで毎月評価・見直しを行う。 ②勤務形態の違いなどで地域や家族との関わりが持たなくても、施設で働く職員として意識を持つよう教育を行う	①自己評価の全ての項目について毎月行う事は出来なかった。 ②職員の入れ替わりもあり、意識教育はあまり進まなかった。	質問項目に事業者や地域の現状を合わない項目がある。	職員の半数以上が「出来ていない」と感じる項目の中で、「6連携・協働」や「7運営」を次年度の主な課題とし、職員が意識的に取り組めるような環境を整備する。
B. 事業所のしつらえ・環境	①建物の構造的にも入りにくいいため、案内板の増設や、SNSやホームページを活用し気軽に訪れられるよう周知する	①入りくさは解消していない。ブログは開始できたが、SNSの運用は出来ていない。	構造的、防犯的にも自由に入出りできる状態にはしていない。 ホームページは本体施設と合同で運営し、ブログを作成しているが、SNSの運用はまだ出来ていない。	事業所の外観に案内が無いため、始めてでも入り易いような案内板を設置する。
C. 事業所と地域のかかわり	①気軽に訪れられるような工夫と同時に、地域の清掃デーなどに職員が参加をする。	①地域清掃デーや盆踊りに職員が参加できたが、地域の方が気軽に訪れられる工夫は出来なかった。	地域へ相談受付の回覧板を出したが、具体的な相談は無かった。 地域で何か困りごとがあった場合は、包括へ相談しているため、事業所に直接相談はしない。 地域清掃や盆踊りに職員が参加出来た	「困りごと相談」を事業所でも行える事を回覧板や掲示板にて告知してもらう。 SNSの運用を進めて、困りごとを相談出来る事を周知する。 地域の行事への参加は継続する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①利用の有無に関わらず、困っている事が相談出来る事を、様々な媒体で発信する。 ②利用者が個別に参加したい行事やイベントがあれば協力をする。	①困りごとの相談を受け付けている事を回覧板で周知してもらった。 ②地域の行事や季節の様子などを見に外出した。	外部で行われるイベントなどに利用者とは外出している。 利用者以外の方との関わりは無い。	地域の困りごとや心配な方について、気軽に相談出来る事を周知する。 利用者の外出や、イベントへの参加を継続する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①運営推進会議の参加者を増やす。 ②運営推進会議にて少なくとも1件は個別ケースなどの点検を行う。	①法人所属のケアマネに参加してもらった ②毎回、個別ケースについて紹介した	法人内の居宅介護支援事業所に所属するケアマネを参加者に加えた 個別ケースの紹介や課題などを会議毎に提示している	運営推進会議に利用者又は、家族の参加を促す。(年間を通して参加できるようにする) 運営推進会議で出た意見について、取り組みや結果を報告する
F. 事業所の防災・災害対策	①運営推進会議の中に防災計画・BCPの説明を入れる。※年度内に1回以上 ②運営推進会議にて、防災訓練への案内や防災訓練の報告を行う	①防災計画とBCPについては紹介できなかった ②防災訓練の案内や地域の訓練への参加も出来なかった。	防災計画、BCPについては説明の機会を設けなかった。 事業所の防災訓練への参加案内をしていない。 所在町会の防災訓練は無く、地域清掃時に炊き出しが行われてた。	防災計画・BCPについて開示する。そのうえで、有効な意見については取り入れていく。 防災訓練の案内を各委員に送付する。 備蓄品などの準備状況を開示して、災害時の参考にしよう。